

全労連社会保障闘争本部ニュース

NO.130

全労連社会保障闘争本部発行

2020年11月30日

#いのちまもる

「もう、限界..国が補償を」 損失補填求め“いのちまもる”緊急アクション

高まるリスク、積みあがる心身の疲労、減額される一時金 国は医療現場に補償を



(道労連 NEWS から抜粋) 道労連と北海道医労連は11月29日、札幌市中心街で「#いのちまもる」緊急アクションを実施。医労連の組合員をはじめ、高教組、建交労、福祉保育労、新婦人北海道本部から30名が参加しました。

日本医労連は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、医療機関の4割超が年末賞与を昨冬より引き下げられている実態が発表されるなど、医療現場は深刻さを増しています。クラスター発生など感染リスクへのプレッシャーが強まる中でも、必死で診療・治療にあたっている医療労働者に対して、賃金・一時金を削減したり、人員整理をしたり、医療労働者へのしわ寄せでコロナ禍の経営悪化を乗り切ることなど許されません。



今回の行動は、こうした実態を踏まえて二の責任で医療機関の損失補填を求める声を広げようととりくみました。

現場からのスピーチでは、日増しに切迫していく状況と、早急な国の支援を求めました。リアルな心に響く訴えに「署名せずにはいられない」と続々と賛同が。BIG プラカードや横断幕に食い入るように見つめる人、署名コーナーを見つけスクランブル交差点を駆け足で渡ってくる人など寒空の中でも「いのちを守る」の熱い思いが伝播しました。

SNSへの投稿に相づく応援、共感の声、声、声！

誰でも、どこからでも思いを伝えられる、声をあげられるSNSの活用が力になる

